

1. 2015年度報告

早稲田大学 100 周年を記念して創立された本学院は、「Waseda Vision150」で提示した将来構想をさらに発展・具体化し、創立 40 周年(2022 年)に新たな第二ステージの完成を目指すロードマップを作成した。附属高校としての責務を果たすだけでなく、高校教育界にあって確固たる地位を築くことを目標に、主に 3 つの観点から取り組みを進めた。

(1) 世界に貢献するグローバルリーダーの育成

SGH(スーパーグローバルハイスクール)を中軸に、早稲田大学のコアとなるだけでなく、グローバルリーダーとして世界の平和や人類の幸福の実現に貢献できることを目標とする人材育成プログラムの開発に着手した。

①SGH指定校に採択

文部科学省からSGHの指定校に採択され、初年度の計画に着手した。

②SGH推進体制の整備

- ・学内SGH委員会を組織し、過去 10 年のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)の実践を通じて蓄積した指導・研究開発のノウハウをSGHに敷衍した。
- ・教職員を対象に、組織的・計画的な開発体制や授業間連携を図るべく、研修の一環として各種ゼミナールを開催した。
- ・生徒によるSGHシニアスタッフ委員会を立ち上げた。マイクロプロジェクトの発想をベースに、プロジェクトのコアとなって動く生徒、いわゆるコアリーダーの育成に取り組んだ。
- ・国際共生を踏まえた各種ボランティア活動を計画するにあたり、環境問題、国際紛争、貧困などの「地球の問題群」を理論的、統合的に学ぶため、各種研修会に参加した。

③テーマ学習型交流プログラムの開発

- ・協定締結校(中国・韓国・台湾)やシンガポールの高校と協同し、テーマ学習型交流プログラムの開発を行った。

(2) 高大一貫教育の充実

基礎学力の充実に向けて新カリキュラムを立ち上げるとともに、新しい学部への推薦制度を導入した。

①G選抜学部推薦制度の導入

- ・思考力、判断力、表現力や主体性など、成績だけの単一尺度では測れない能力・資質を多面的に評価し、学部推薦を決定するG選抜学部推薦制度を立ち上げた。

②新カリキュラム策定

- ・文理いずれの分野に進んでも対応できる確かな学力を涵養するため、基礎力、思考力、判断力、表現力を一層伸長する新カリキュラムを策定した。

③卒業論文指導の強化

- ・高院連携(本庄高等学院と理工の大学院との連携)を深化させることにより、卒業論文指導の強化を図った。

(3) 教科横断型授業、地域の環境を活かした教育の展開

地域の環境を活かした教科横断型授業を展開した。

①「大久保山学」の立案

- ・大久保山の緑豊かな自然環境の中で、自然と共に生き、自然の知恵に学ぶ本学院独自の教育プログラム、通称「大久保山学」を各教科で立案した。2017 年度より「総合的な学習の時間」に実施する。

②教科横断型授業

- ・世界文化遺産へ登録された「富岡製糸場と絹産業遺産群」とも関係の深い、本庄市の紡績業をテーマとした教科横断型授業に取り組んだ。

2. 2016年度計画

創立40周年(2022年)を目途に、新たな第二ステージの完成を目指すべく具体的な目標の策定を行う。附属高校として大学のコアとなる人材を養成する責務を果たすとともに、人文社会学系および理系双方の視点から、グローバル人材開発教育を更に推し進め、アジアの交流校のハブおよび地域のグローバル化の拠点となることを目指す。

(1) グローバルリーダーとして活躍する人材の育成 ―SGHプログラムを通して―

人文社会科学系プログラムであるSGH(スーパーグローバルハイスクール)を活用し、大学のコアとなる人材、グローバルリーダーとして世界の平和や人類の幸福の実現に貢献できる人材を育成する。

- ・テーマとして掲げる「国際共生のためのパートナーシップ構築力育成プログラム」を更に充実・展開する。具体的には、SGHの核となる生徒参加型「マイクロプロジェクト」群の活動を通して、国内外の高校、大学や企業、地域社会と交流・連携し、社会課題に協働で取り組む。
- ・修学旅行をベースにした中国・韓国・台湾の協定締結校との交流、シンガポールの協定校との交流を深化発展させ、学術・教育・文化などの国際協働プロジェクトに取り組む。

(2) 科学教育のさらなる発展 ―さくらサイエンスプラン(2016年度採択)を通して―

- ・さくらサイエンスプランとは、JSTによるプロジェクトで、アジア諸国を対象に1つの国を日本に招待し、日本の高度な科学技術を紹介するとともに、友好関係を深めることを目的とする。この理系プログラムを通して、10年以上にわたるSSH(スーパーサイエンスハイスクール)指定校として得られた成果と知見を更に活用し、本学院の理系教育のレベルを高める。

(3) 7年間の高大一貫教育の工夫・充実

- ・新カリキュラムにより文理それぞれの進路で要請される基礎学力を涵養する。
- ・「自ら学び自ら問う」という基本方針を具体化した「卒業論文」を更に充実させる。
- ・留学期間も含め3年で卒業・進学できる新たな留学制度を整備・充実させ、グローバル化を推進する。
- ・学業成績だけでなく、思考力や判断力、意欲、主体性など、多面的評価によって学部推薦を決定するG選抜制度を2018年度開始に向けて整備する。

(4) 学際型科目の設置、地域の環境を活かした教育の展開

地域の環境(大久保山に位置するキャンパス)を活かし、学際的な教科横断型授業を展開する。

- ・本学院の緑豊かな自然環境の中で、自然と共に生き、自然の知恵に学ぶ、本学院独自の多様な教育プログラムを経験させる。
- ・本学院独自の教科横断型プロジェクト「大久保山学」を、2017年度よりカリキュラムに正式に位置づける準備を更に押し進める。これにより幅広く学際的な知見を習得させ、知識や学問が実社会で活用できることを体験させる。
- ・グローバル人材に求められる複合的視点を養い、日本のみならず海外各国・地域固有の課題解決に対応できる力を生徒に身に付けさせる。

以上